

① 次の傍線部の漢字をひらがなに、カタカナを漢字に直しなさい。

- (1) 音楽会は定刻に始まった。
- (2) 秘境を探検しに行く。
- (3) 潮風に吹かれながら歩く。
- (4) 映画の舞台となった場所を訪れる。
- (5) テストで漢字を書き誤る。
- (6) 雨が降って運動会が延びた。
- (7) 応援されて選手たちが奮い立つ。
- (8) 優勝のカンゲキが忘れられない。
- (9) ピアノのドクソウに聞き入る。
- (10) 作文を先生にヒヒョウしてもらう。
- (11) 公園のイタるところに花が咲いている。
- (12) 指示にシタガって動く。
- (13) 祖母におミヤゲを届けた。
- (14) 毎日マジメに勉強する。

② 次の中から「春」「夏」「秋」「冬」の季語(俳句などで、季節を表すため、よみこむように決められたことば)を、それぞれ一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- | | | | | | | | |
|---|----|---|-----|---|-----------------------|---|-----|
| ア | 青空 | イ | 新米 | ウ | 鳥 <small>からす</small> | エ | 百合 |
| オ | 夕日 | カ | 山眠る | キ | 雪崩 <small>なだれ</small> | ク | 高気圧 |

③ 原稿用紙の使い方について、次の各問いに答えなさい。

- 問一 『』は、どんなときに使う記号ですか。二つ答えなさい。
- 問二 段落を立てるのはどのようなときですか。一つ答えなさい。
- 問三 「……」や「――」の記号は原稿用紙のマス目をいくつ使いますか。

④ 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。答えをぬき出す問題は、句読点も字数にふくみます。

怖いから震えちゃうんだ。それってしようがないだろう。恵介はさりとらと言った。

そうだよな。しようがないよな。怖いものは怖いもんな。

恵介のようにさりとらと言えたら、みんなの前で堂々と震えることができたなら、どんなに①せいせいするだろう。

今、塾への道をゆつくりと歩きながら、考えていた。

どんなに、せいせいするだろう。【 1 】……やっぱり、言えない。

足が止まった。神社の前だ。塾のある駅前に行くには、神社を抜けるのが一番の近道だった。冬は真っ暗になるが、夏の初めの今ならまだまだ明るい。

恵介？

苦むした石段を恵介が登っていったのだ。こんな時間に、神社に何の用があるんだろう？ 塾の時間に遅れそうだった。いつもなら、そのまま通り過ぎただろう。でも、今日は、②恵介の言葉が耳にこびりついてた。

怖いから震えちゃうんだ。それってしようがないだろう。

恵介の後を追って、石段を登る。境内には誰もいなかった。

「あれ……消えちゃった？」

辺りを見回す。人影はなかった。

消えた？ まさか？

「おーい、恵介」

「はーい」

③ のんびりした返事が頭上からふってきた。見上げる。境内で一番大きなくぬぎの樹の枝に恵介が座っていた。

「おまえ……樹に登ってたのか……」

「そうさ。一ちゃんも来いよ」

恵介が樹の上から手招きする。木登りは得意だった。塾のカバン

を放り投げて、くぬぎの幹につかまる。枝やうろに足をかけて、恵介のいる太い枝までたどりついた。

「うわあつ」

思わず声をあげていた。

眼下に町の風景が広がる。一の家もある住宅街。その向こうには青々とした田畑が続き、さらにその向こうに濃い緑に包まれた山々が連なっていた。田畑の辺りで白いものが動くのは、サギが蛙でもついでに輝き、美しかった。自分の住んでいる町がこんなに美しいとは思ってもいなかった。

「すごいな」

「だろ？」

恵介がにこりと笑う。

「ここ、最高の場所なんだ。嫌なことがあると、ここに来てこの風景を見るとすっとするんだよな」

「嫌なことって……くつ箱のところで、からかわれたことか」

「うん、まあ……あつ、一ちゃん、かばってくれて、ありがとう」

「え？ おれ、かばってなんかいないよ」

自分のことを笑われたようで、つらくて逃げ出したただけだ。

「恵介は……本当に雷が苦手なのか」

「うん。その他にも苦手がいっぱいある。だけど得意なこともあるよ。樹に登っているんな風景を発見するとか……それを作文に書くとか」

そういえば、恵介は去年の夏「ぼくたちの街」という作文を書いて、県の大会で入賞していた。印刷されたその作文を一も読んだ。わくわくした。美しい風景が目の前に広がったような気がした。読んでいてわくわくした。楽しい物語にであったときみたいだった。そうだ、

④あのととき、ひさしぶりに恵介の話聞いていたころのわくわくを思い出したのだ。あれは、⑤この風景だったのだろう。

「恵介、作文、上手だもんなあ」

「ほんとに？」

「うん、ほんとにそう思う。あの……おれさ、また恵介の作った話、聞きたいって思うこと……あるし」

「あつ、一ちゃん。覚えててくれたんだ」

「うん。なんか……忘れてないみたい」

「ありがとう」

恵介が微笑む。ほんとうに【 2 】笑顔だった。

「苦手がいっぱい。でも、得意もちよっぴり」

恵介が笑い顔のまま、妙なリズムをつけてそう言った。

「苦手がいっぱい。でも、得意もちよっぴり」

一もまねをして繰り返し試してみる。なんだか、おかしかった。大声で思いつき笑いなくなる。

「ここで深呼吸すると気持ちいいよ。夕立のあととはとくに気持ちいい。雷は嫌だけど、空気を気持ちよくしてくれるんだよな」

「深呼吸か……」

雷の去った後の冷たく潤った空気を胸いっぱい吸い込む。美味しい。⑥雷の残した贈り物だ。⑦一は、自分が少し大きくなったような気がした。今度、雷がなったら「怖いよお」と大声で叫ぶような気もした。

「苦手がいっぱい、でも、得意もちよっぴり」

呟いてみる。それから恵介と顔を見合わせ、声をだして笑った。

重なりあった笑い声は【 3 】になり、どこまでも、どこまでも響き渡っていくようだった。

あさのあつこ『夏を見上げて。』

問一 傍線部①「せいせいする」の意味を一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 楽しい気分になる。
- イ 気分がすっきりする。
- ウ 不安な気持ちになる。
- エ 自信がわいてくる。

問二

空欄【 1 】に入る言葉を一つ選び、記号で答えなさい。
ア すると イ だから ウ でも エ さらに

問三

傍線部②「恵介の言葉」を二十五字程度でぬき出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問四

傍線部③「のんびりした返事が頭上からふってきた。」から、主語と述語を抜き出しなさい。

問五

傍線部④「あのとき」とは、いつのことか。一つ選び、記号で答えなさい。

ア 恵介が去年の夏に書いた作文が、県の大会で入賞したとき。

イ 恵介が去年の夏に書いた作文を、一が読んだとき。

ウ 恵介と一緒に樹に登り、自分の住む街を見たとき。

エ 恵介と一緒に樹に登り、恵介の作った物語を聞いたとき。

問六

傍線部⑤「この風景」とあるが、どんな風景か。具体的に書かれている部分を探し、最初と最後の五字をぬき出しなさい。

問七

空欄【 2 】に入る言葉を一つ選び、記号で答えなさい。
ア 不安そうな イ さびしそうな
ウ 楽しそうな エ うれしそうな

問八

傍線部⑥「雷の残した贈り物」とは、何のことですか。十五字でぬき出しなさい。

問九

傍線部⑦「一は、自分が少し大きくなったような気がした」のはなぜですか。あなたの考えを書きなさい。

問十

空欄【 3 】に入る言葉を一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 風
- イ 雷
- ウ 木
- エ 雨

⑤

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。答えを抜き出す問題は、句読点も字数に含みます。(設問の都合で本文の一部を省略しています。)

(張り紙の文)

- 1 子イヌ、さしあげます。
- 2 うちの子イヌ、君にあげるよ。
- 3 子イヌ、ほしいんならやろうか。

今あげた例は、具体的な **A** を与えたり受けとったりする場合でした。今度は **B** で見てください。恩と感謝のちがいがもう少しよくわかるようになると思います。

- 4 母さんは夜なべ(徹夜)をして手ぶくろを編んでくれた。
- 5 母さんに夜なべで手ぶくろを編んでもらった。

ものでなく行為を与えたり受けとったりする場合には、「くしてくださる」「くしてくれる」「くしていただく」「くしてもらう」などという形になります。4は「母さんの歌」の歌詞からとりました。手ぶくろを編んだ主体は母さんで、この人は、①母さんが自分のために手ぶくろを編んだことに対して、申しわけない、親孝行しないといけないあと感じていることがわかります。4は遠くはなれているふるさとの母さんが、自分のために徹夜をして手ぶくろを編んだということに対して、ただありがとうと感謝するのではなく、母親の恩を感じて、自分からも親孝行をしてお返しをしたいという気持ちにあふれた表現です。それに対して、5は話題の中心は自分もらったことですから、母さんのした行為は話題の中心からはずれてしまっています。

そこで、たとえば友だちに、
「これ、母さんが編んだ手ぶくろなんだぞ。あつたかそうでもいいだろう」

と見せびらかしたりするかもしれない。そこには、母さんへの
C の気持ちはあっても、悪いなあ、親孝行しなくちゃという
D の気持ちは入っていないのです。

前にもどって1と3の「さしあげる」「あげる」「やる」も、じつは恩を自分から相手に与える行為といふことができます。「手ぶくろ編んであげるよ」といえば、ものを与えるだけでなくて、相手に恩も売っていることになるのです。「くしてやる」というときは、相手の感謝とお返しを求めているときです。

あなたがお兄さんに何かたのんだとき、

「そうか、それじゃあ、しかたがない。おれがやってやろう」

などと②えらそうに言うので、カチンときたことはありませんか。あれはお兄さんがあなたに対して恩を売っているのです。③それでカチンとくるのです。

そういうわけで、さつき目上の人や知らない人には「さしあげる」をつかうと言ったのですが、④はつきり目上とわかっているえらい人に対しては、「くしてさしあげる」はあまりつかわれないほうがいでしょう。そうでないと、恩を売っていると受けとられる可能性があるので。

「先生、お誕生日のお祝いを E ましょう」

こういうふうになると、もしかしたら先生は、

「いいよ、たいへんだから（悪いから、お金がかかるから）」

などといつてえんりよしてしまうかもしれない。これは、「くしてさしあげる」という表現には、あなたのためにわざわざするのだから、あなたはそれに恩を感じなければいけませんよという気持ちが入ってしまうためなのです。だから、先生の気持ちを軽くしたいと思つたら、

「先生、お誕生日のお祝いをさせてくださいませんか」

と言うとよいでしょう。こうすれば、先生に対して恩や感謝を求め押しつけがましいニュアンスがなくなつて、とても⑤おくゆかしい表現になります。

恩とか義理とかいうとすぐ古くさい話のように感じてしまいま

すが、じつは私たちは毎日のように、

- 6 「ちよつと、その本、とつてくれない？」
- 7 「まあ、ステキなセーターねえ」
- 8 「母に編んでもらつたの」
- 9 「電車の中でお年寄りに席をゆずつてあげた」

などのように、いろいろな行為の中で人に与えたり、人から受けとつたりしているのです。⑥ものや行為を与えるのといつしよに恩を与え、⑦ものや行為を受けとるといつしよに感謝を受けとると考えたらいでしょうか。

いちいちあなたに恩を感じていますとか、感謝していますとか言わなくても、「くしてくれる」「くしてもらう」と言っただけで、

⑧その気持ちが表れます。このように日本語では、相手に対する恩や感謝の気持ちを持つていると表現することが、相手に対して敬意を表すということになるのです。「くしてくれる」「くしてもらう」「くしてさしあげる」ということばをつかうたびに、私たちは恩や感謝を与えたり受けとつたりし、⑨それといつしよに敬意も移っていくのですね。

浅田秀子『日本語にはどうして敬語が多いの？』より
(出題者による省略、例文番号変更、傍線消去あり)

問一 「1」の文の(1)「さしあげ」(2)「ます」の敬語の種類を

次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 尊敬語 イ 謙譲語
ウ 丁寧語 エ 美化語

問二 A D に入る語を本文から抜き出しなさい。

問三

傍線部①「母さんが自分のために手ぶくろを編んだことに對して、申しわけない、親孝行しないといけないなあと感じている」とあるが、これは何を感じていることを言っているのか。本文中から五字以内で抜き出しなさい。

問四

傍線部②「えらそうに言う」とありますが、えらそうに言っている部分を本文中から十字以内で抜き出しなさい。

問五

傍線部③「それで」の内容を「くから」に続くように、本文中から抜き出しなさい。

問六

傍線部④「はつきり目上とわかってるえらい人に対しては、『くとしてさしあげる』はあまりつかわないほうがいい理由として正しいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 目上の人は、相手が感謝とお返しを求めていることをすぐに見破ってしまうものだから。

イ えらそうな言い方をすることで、相手を見下していることがはつきりと表れてしまうから。

ウ 相手に敬意を抱いていないことが分かる上に、恩を売っていると考えられる可能性があるから。

エ 相手に対する敬意を示したつもりなのに、恩を売っていると受けとられる可能性があるから。

問七

文脈にそって E に適切な語を入れなさい。

問八

傍線部⑤「おくゆかしい」の本文中での意味を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア しゃばった感じが消えて、とても親しみやすい
イ 深い考えや心づかいが感じられて、心がひかれる
ウ さらにいいねいな気持ちを感じられて、品がよい
エ 優しく、落ちついた人がらが伝わり、信頼できる

問九

傍線部⑥「ものや行為を与えるのといっしょに恩を与えている表現を6く9の会話文の中から一つ選び、五字程度で抜き出しなさい。

問十

傍線部⑦「ものや行為を受けとるのといっしょに感謝を受けとる」表現を6く9の会話文の中から二つ選び、それぞれ七字で抜き出しなさい。

問十一

傍線部⑧「その気持ちが表れます」とありますが、「その気持ち」の内容を五字以内で本文中から抜き出しなさい。

問十二

傍線部⑨「それといっしょに敬意も移っていく」とはどういうことか。次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 恩や感謝を与えたり受けとったりするときに、「くしてくる」「くしてもらう」「くしてさしあげる」という言葉を使うことで、与えた相手や受けとった人に敬意が伝わるということ。

イ 「くしてくる」「くしてもらう」「くしてさしあげる」という言葉を使うたびに、相手に対する敬意が言葉から離れて消えていってしまうということ。

ウ ものや行為を与えるのといっしょに、恩を与えたり感謝を受け取ったりすることで、相手に対する敬意の気持ちや感謝の気持ちが養われていくということ。

エ 相手に対して、いちいち恩を感じていますとか、感謝していますとか言わなくても、感謝や恩を感じる気持ちがあれば、敬意は伝わるものだということ。

問十三 本文で筆者が言いたいこととして適切なものを、次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 日本語では「おかげさま」や「ありがとう」などと直接言わずとも相手に対する恩や感謝の気持ちを持っていると表現することができ、それが相手に対して敬意を表すということになる。

イ 恩や感謝をやりとりすることで相手を目上の人として認めたことになるから、相手に対する恩や感謝の気持ちを持っていないと表現することが、相手に対して敬意を表すということになる。

ウ 恩や義理などの古くさいものを大切にすることが目上の人を大切にすることになるので、相手に対する恩や感謝の気持ちを持っていないと表現することが、相手に対して敬意を表すということになる。

エ 感謝されることは誰にとってもうれしいことなので、敬意も伝わるものだから、相手に対する恩や感謝の気持ちを持っていることと表現することが、相手に対して敬意を表すということになる。

⑥ 次のア～ウの中からテーマを一つ選び、条件にしたがって文章を書きなさい。

テーマ ア 「好きな言葉について」
イ 「ボランティア活動について」

ウ 「未来に残したい日本のものについて」

① 氏名や題名は書かず、本文から書き始めること。

② 二段落構成で書き、一段目にはテーマに関する自分の体験を、二段落目にはそれについての思いや意見を書く。

③ 二百六十字以上、三百字以内で書く。